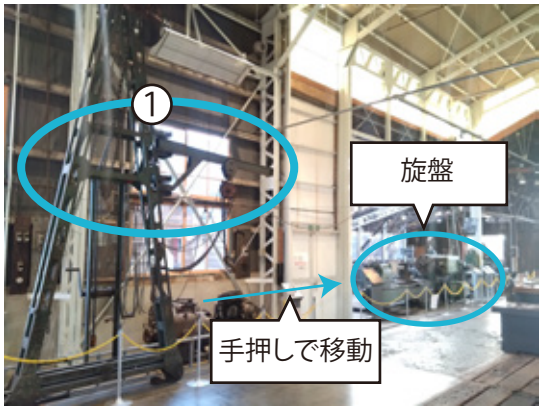
くりでん アレコレ
伝プロジェクト
第13号
2026年3月1日発刊

車両の整備用具・設備

車両を持ち上げる設備

クレーン



電車時代に車両を解体して検査するなど、車体を持ち上げて作業する際に活躍したクレーンです。
片側に付いているアーム(①)で、モーターやエンジン、車輪といった重い部品を持ち上げていました。この工程は電動でしたが、クレーンを工作機械に移動させる際は、4人が手押しで移動させていました。またクレーンから旋盤に車輪を移す工程も、複数人が声掛けをしながら行っていたようです。
他にも車両を検査するために車体を持ち上げる工程の中で、連結器をフックに引っ掛けて持ち上げる作業も行っていました(②)。その際は、車体を持ち上げるためのジャッキも、併せて使っていたようです。

リフティングジャッキ

現在保存している車両、KD95形、KD10形を持ち上げるためのジャッキです。これらは車両の重要な検査の際、台車を取り外すために使われるもので、車体の4か所にジャッキをセットし、一斉に持ち上げていました。
1990年代中ばにKD95形とKD10形が新たに入線した際、既存のクレーンとジャッキで車両を持ち上げられなかったため、購入されました。

現役時代にジャッキを使って
車両の検査をしている様子

工具棚

工具の形がシルエットで描かれている、オリジナルの工具棚です。様々な形の工具を正確な場所に片付ける工夫がされています。これらの工具は電車時代に使われたものでした。なお左側には、電動工具類が収納されています。

溶接機

１９４６年製の溶接機です。
1970年代後半から車両整備に関わっていたOBによると、ほとんどの溶接作業で使っており、必要な個所への移動が可能だったとのことです。溶接棒などの付属品は、作業台の引き出しの中に収納されていました。

作業台

作業台

機関車庫と客車庫に複数台ある、部品の点検などに使われた台です。
付属の万力で作業する際、勢いで台が動かないようにするため、意図して重い状態にする必要がありました。なお、1つ1つの台ごとに作業が割り振られている、もしくは指定席だったということは、特になかったようです。

万力

大きな材料を挟んで強く固定するための道具です。ノコで切断したり、やすりで磨いたりする作業の際に使われました。
備え付けのハンドルを回すことで、相対する2つの口金を締めて固定することができます。機関車庫、客車庫で見られる作業台のすべてに、万力が付いている、もしくは付いていた痕跡があります。

卓上ボール盤

工作物に穴を開けるための機械です。
作業台に付属している小型のもので、1980年頃には工作機械スペースにあるボール盤と併用して使われていました。
工作機械のボール盤については、『くりでんアレコレ第8号』にて解説しています。

次回予告

修繕庫の中にある展示物

【くりでんミュージアムへの問い合わせ】
TEL：0228-24-7961
FAX:0228-24-7962
メールアドレス:info@kuridenpark.com